

## 兵庫県内出土の海獣葡萄鏡

現在確認されている海獣葡萄鏡の多くは古社寺に伝わる伝世品や、来歴が不明の個人所蔵品であるが、遺跡の発掘調査など地中から発見されたものもある。このような発掘資料は海獣葡萄鏡が流通した年代や流通範囲、使用状況など、極めて重要な多くのデータを提供してくれる。

海獣葡萄鏡が日本の遺跡から出土した例は、奈良県明日香村高松塚古墳をはじめとして約30箇所(勝部1996)が知られている。ただし、これら全てが中国製とは限らず、日本で原鏡から鋳型を制作した、いわばコピー作品も多く含まれている。

兵庫県内からは以下の4例の出土が知られている。

深江北町遺跡からは奈良～平安時代の役所跡が見つかり、海獣葡萄鏡は建物の柱を据えるために掘られた穴の上から出土した。鏡の大きさは3.9センチと小さい。背面の紋様は大きく崩れ、かろうじて鈕と獣のふくらみが確認できる程度で、国内産と考えられる。他の遺跡の例では海浜や溝などの水に関わる祭祀の場で見つかることが多く、鏡面も磨かれていないことから、鏡形をした祭祀具であったと考えられる。

他の3例は発見時の詳細は明らかでない。分布をみると瀬戸内側にまとまる傾向が認められるが、点数が少ないため、その意味するところは今後の検討が必要である。

No.	遺跡名	場所	鏡径 cm
1	勅使川遺跡(窯跡?)	宝塚市中山台1丁目	5.9
2	奥井谷墓	川辺郡猪名川町下肝川	10.0
3	深江北町遺跡	神戸市東灘区深江北町	3.9
4	二本松古墳	神戸市兵庫区会下山町	9.4

### <海獣葡萄鏡に関する主な参考文献>

- 樋口隆康 1975年「海獣葡萄鏡論」『橿原考古学研究所論集』3 八木書店
- 森 豊 1978年『海獣葡萄鏡 シルクロードと高松塚』中公新書324 中央公論社
- 山本忠尚 1996年「葡萄唐草紋」『唐草紋』日本の美術第358号 至文堂
- 勝部明生 1996年『海獣葡萄鏡の研究』臨川書店
- 杉山 洋 1999年『古代の鏡』日本の美術第393号 至文堂
- 石渡美江 2000年『楽園の図像 海獣葡萄鏡の誕生』歴史文化ライブラリー97 吉川弘文館
- 樋口隆康 2008年「海獣葡萄鏡の海獣とは」『橿原考古学研究所論集』15 八木書店

主催 兵庫県立考古博物館加西分館  
後援 兵庫県 兵庫県教育委員会



# 海獣葡萄鏡の世界 1

平成29年 7月13日(木) → 9月5日(火)

かいじゅうぶどうきょう 海獣葡萄鏡 約1,300年前



唐時代を代表する銅鏡の一つで、「海獣」と「葡萄(ぶどう)」を主紋様とする。

「海獣」とは、外来の異獣を意味し、ライオンの姿が元になった瑞獣(おめでたい獣)である。「葡萄」は豊かな実りを象徴し、紀元前4世紀頃にギリシアで生まれた「葡萄唐草紋」とよばれる紋様としてあらわされる。

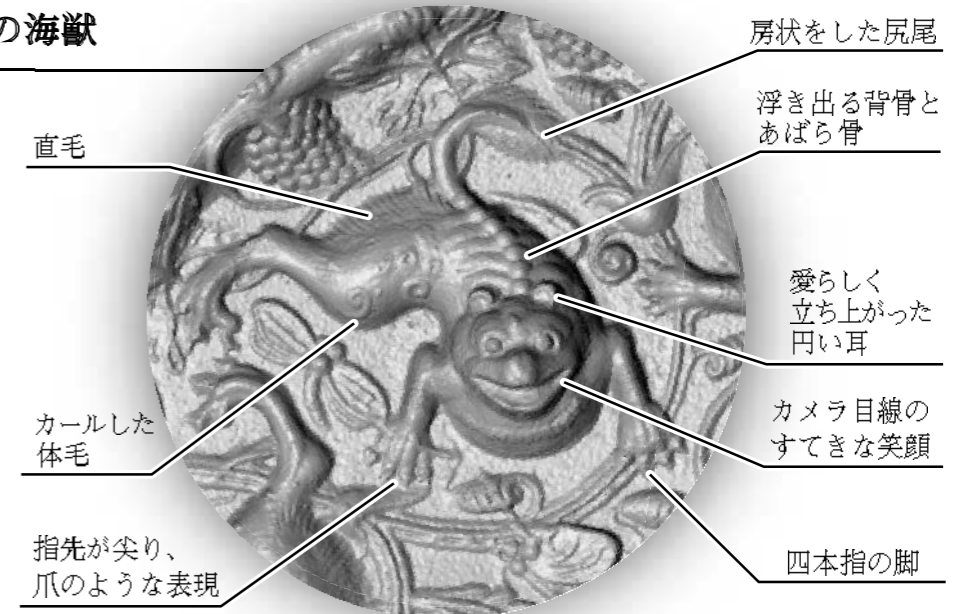
これら西方を起源とする図像がシルクロードを東伝し、中国的な楽園図像の中に吸収され、国際色豊かな鏡背面のデザインとして新たに完成した。

海獣のほかにも、蝶、蜂、蜻蛉(とんぼ)といった昆虫や鳥などが舞い、その様子から「楽園の図像」とも呼ばれている。

日本国内の遺跡から出土するほか、正倉院宝物や社寺の奉納品としても多く残されている。

### 千石コレクション(図録213)の海獣

ライオンの姿が伝えられたもの(獅子:しし)といわれる。背骨・あばら骨の表現により2種類に分かれ、雌雄の違いを表すのかもしれない。他の鏡では2本の角や、たてがみを表すものもある。



# 楽園の図像 海獣葡萄鏡の世界

いろいろなポーズの鳥



## 豊かな実りを表す葡萄

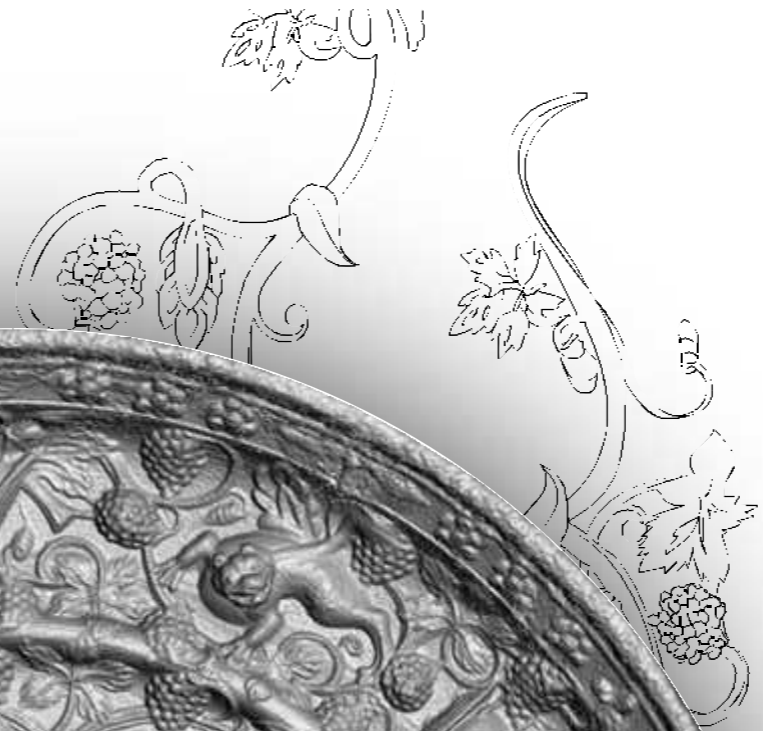


茎や蔓(つる)がつくる波状の連続曲線を軸とし、それに葉や葡萄の房をからめた「葡萄唐草紋」としてあらわされる。

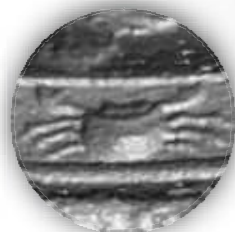
当時の中国では葡萄は珍しい植物であった。

葡萄唐草紋はギリシアから西アジアに伝わり、豊穰を象徴する紋様として盛んに使われ、インドや中央アジアを経て中国に波及した。

インドや中国、日本の仏教寺院にも認められる紋様である。



## 蟹(かに)



空を飛べない小動物を表した数少ない例。脱皮するところが「再生」をイメージさせる。

はさみを含めて左右で8本なので、タラバガニを表すようである。



## 天に通じ、不死を象徴する昆虫

蝶、蜂、蜻蛉(とんぼ)、蛾などの空を飛ぶ虫は天に通じるもので、蛹(さなぎ)から成虫へと変化する様は再生、不死を象徴するものと考えられた。



千石コレクション (図録213) 径 20.9cm